

## 果樹カメムシ類の飛来に注意！

岡山県病害虫防除所の調査によると、予察灯（赤磐市）におけるチャバネアオカメムシの初誘殺を4月4半旬に確認しており、発生時期は平年（5月1半旬）より早くなっています。また、4月1半旬～4半旬の誘殺数も7頭と、平年（0.1頭）より多くなっています。

広島地方气象台が4月23日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みとされており、果樹カメムシ類の果樹園地への飛来に好適な条件となっています。

ほ場を注意深く観察し、本虫を確認した場合は速やかに防除を行ってください。

### 〈防除対策及び防除上の参考事項〉

#### ○防除対策

- 1 幼果期から収穫期まで、カメムシ類の発生に応じて薬剤散布を行う。  
モモ、ナシにおける防除薬剤は表1及び表2による。
- 2 袋掛け作業を遅れないように行う。
- 3 黄色灯の点灯はチャバネアオカメムシに対して忌避効果がある。  
ただし、クサギカメムシには効果がないこと、カメムシの発生が多いと十分な効果を得られないこと等から、薬剤防除を徹底する。
- 4 樹全体に目合い4mm以下のネットを掛けてカメムシ類の寄生を防ぐ。  
ただし、すでにカメムシ類が寄生している樹にネットを掛けると大きな被害を受けるので、ネットを掛ける前に薬剤散布を行う。

#### ○防除上の参考事項

- 1 モモ、ナシ以外の、その他果樹においても過去に果樹カメムシ類による被害があったほ場では、今後の飛来に注意する。
- 2 「袋掛けまで」と、「袋掛け後の肥大～成熟期（袋と果実が密着し、カメムシ類が袋の上から吸汁可能となる）」の果実被害が懸念される。
- 3 最新の農薬登録情報は、農林水産省ホームページの農薬登録情報提供システム（<https://pesticide.maff.go.jp/>）で確認できる。

表1 モモのカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和8年4月23日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC <sup>2)</sup> コード
	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	
アーデント水和剤	収穫前日まで	1,000倍	3回以内	3A <sup>1) 3)</sup>
アーデントフロアブル	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内	
アディオオン乳剤	収穫7日前まで	2,000倍	6回以内	
テルスター水和剤	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内	
テルスターフロアブル	収穫前日まで	3,000倍	2回以内	
イカズチWDG	収穫前日まで	1,500倍	5回以内	
ロディー乳剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで <sup>5)</sup>	5,000～10,000倍	2回以内	
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで <sup>5)</sup>	1,000倍	2回以内	
アドマイヤーフロアブル	収穫3日前まで <sup>5)</sup>	5,000倍	2回以内	
スタークル/アルバ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000～4,000倍	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
キックオフ顆粒水和剤 <sup>1) 4)</sup>	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28/4A

1) 水産動植物に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

4) 有効成分がクロラントラニリプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル/アルバリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

5) ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。

表2 ナシのカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和8年4月23日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC <sup>2)</sup> コード
	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	
アーデントフロアブル	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	3A <sup>1) 3)</sup>
アーデント水和剤	収穫7日前まで	1,000倍	3回以内	
アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	3回以内	
アディオフロアブル	収穫前日まで	1,500倍	2回以内	
アディオ乳剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	
サイハロン水和剤	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内	
スカウトフロアブル	収穫前日まで	1,500倍	5回以内	
テルスター水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	2回以内	
テルスターフロアブル	収穫前日まで	3,000～6,000倍	2回以内	
マブリックEW/水和剤20	収穫30日前まで	2,000倍	2回以内	
ロディーWDG	収穫前日まで	1,000～1,500倍	2回以内	
ロディー水和剤	収穫前日まで	1,000倍	2回以内	
イカズチWDG	収穫前日まで	1,500倍	3回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで <sup>5)</sup>	1,000倍	2回以内	4A
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで <sup>5)</sup>	5,000～10,000倍	2回以内	
スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
バリアード顆粒水和剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ベストガード水溶剤	収穫14日前まで	1,000～2,000倍	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
キックオフ顆粒水和剤 <sup>1) 4)</sup>	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	28/4A

1) 水産動植物に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。

2) IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

3) IRACコード3Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

4) 有効成分がクロラントラニリプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル/アルパリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

5) ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。

**農薬の使用に当たっては農薬使用基準を確認し厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。**

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

